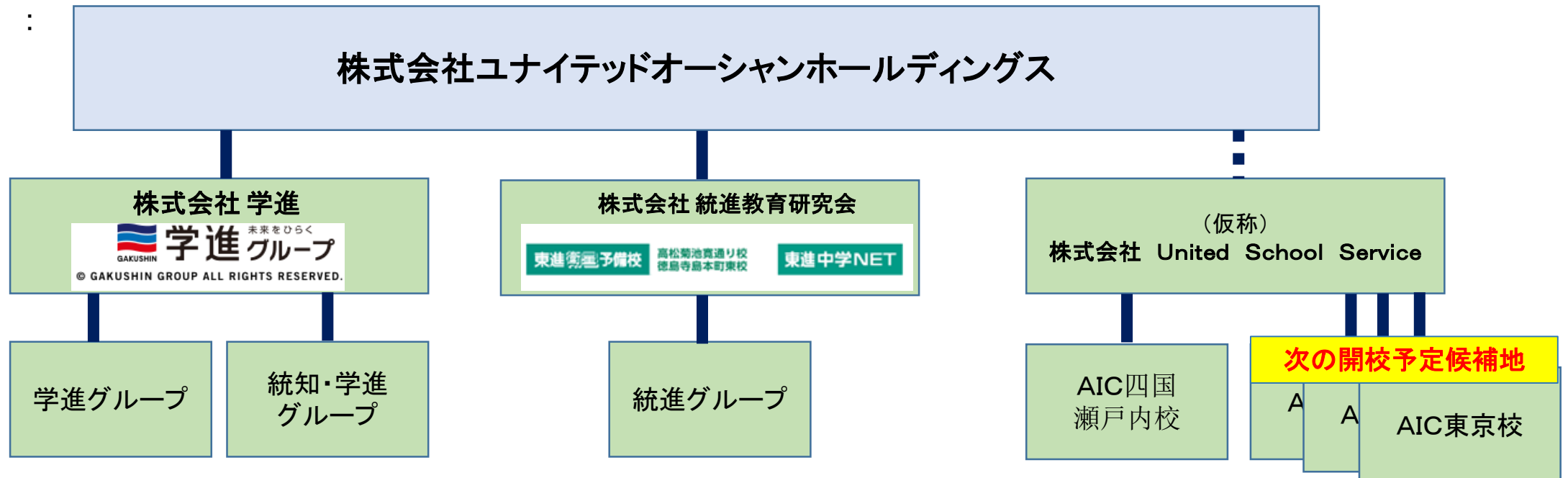


AICインターナショナルスクール 新規開校計画書

1. 会社概要／グループ企業事業内容

- ・商号：株式会社ユニテッドオーシャンホールディングス
- ・設立年月日：2014年1月15日（平成26年1月15日）
- ・資本金：1,000万円
- ・事業内容：学習塾及びカルチャー教室の経営並びにこれに関するノウハウの販売、経営指導及び業務の委託他
- ・役員：内田統夫（1名）
- ・主要株主：内田統夫（1名）
- ・本社所在地：香川県高松市亀井町8番地1
- ・連結子会社：現状2社：株式会社学進（従業員正社員：58名）・株式会社統進教育研究会（従業員正社員：12名）
- ・従業員数：（現状は代表者のみ）

・組織図：



2. 新規事業(AICー日本分校開校事業)～背景と取組について～ 何故に今なのか？

背景

- ・**2020年の大学入試改革は、国内大学をグローバル化することにより産業競争力を強化したいという財界の要望に端を発している。**
- ・国内大学はカリキュラムや学位認定基準だけでなく入試形態も海外のスタンダードに準拠していくことになる。
- ・海外大学は学校での成績(国際バカロレアスコア)や統一テスト(アメリカのSAT)の結果に加え、志望理由書や学生のポートフォリオを各大学のアドミッションポリシーに照らし合わせた上で可否を決定している。
- ・国内大学は地域密着型のローカル大学(概ね地方国公立及び中堅私立大学)と海外大学を意識するグローバル大学(概ね旧帝大及び早慶などの難関大学)に二分化すると思われる。
- ・グローバル大学は特に、海外大学同様各大学のアドミッションポリシーを重視した入試形態に変わっていくと考えられるが、国内の高校、塾、予備校はこの点に関する生徒指導のノウハウを持っていない。

2020年の大学入試改革がトリガーになる

国際バカロレアスコアとは？

地方創生の観点からの立地

当社の対応

・新会社UNITED SCHOOL SERVICEをユナイテッドオーシャンホールディングスの下に設立し(本年7月、資本金100万円)、海外トップ大学への進学指導を行うAIC(オークランドインターナショナルカレッジ)四国瀬戸内校を地方創生の観点も鑑み、香川県丸亀市に開校する。瀬戸内地域の地方創生とインバウンド観光事業の人財発掘・養成の意義も兼ねてこの地に最初の第一校目の開校を企画

- ・開校前にAICニュージーランド校に社員を出向させ、当社内に生徒指導ノウハウを蓄積していく。

AICとは何か？

3. AIC本校の概要について

<http://www.aic.ac.nz/>

①AICとは

「Academy for the International Community=国際社会のための学校」の頭文字です。「世界的視野に立ち、価値ある貢献のできる国際人の養成」という趣旨のもと、**鷗州コーポレーション(※)**が設立した国際的な教育機関です。AICおよび鷗州コーポレーションでは現在、以下の学校や教室を運営ならびに支援しています。

②Auckland International College (AIC高校)

Auckland International College (AIC高校)は、「世界的視野に立ち、価値ある貢献のできる国際的リーダーの育成」を目的として、2003年にニュージーランド最大の都市であるオークランド市に設立された、緑溢れる美しいキャンパスを有する「世界有数の名門進学高校」です。

・ニュージーランド教育省の「Private School Review Report」において極めて高い評価を毎回受け、1期生の卒業式にはヘレン・クラーク元首相、新校舎落成式にはジョン・キー現首相にご出席いただくなど、ニュージーランド全体でもトップ高校のひとつに数えられています。

・AIC高校NZ校 新校舎開校記念式典現在、日本をはじめニュージーランド・アメリカ・ロシア・中国・韓国・タイ・ベトナムなど、世界中から選抜された約300名のトップレベルの生徒たちが学んでいます。

・カリキュラムは、IB(国際バカロレア)プログラムを採用: 教育プログラムは、国際的にも非常に評価の高い「IB(国際バカロレア)プログラム」を採用しており、スイスのジュネーブに本部を置く「IBO(国際バカロレア機構)」の認可校でもあります。このIBプログラムで学び、最終的に「IBディプロマ(国際バカロレア資格)」を取得した学生は、世界ランキングトップ50の名門大学をはじめ日本のトップ大学からも合格通知を受け取ることが可能となります。

(出展: <http://aic-oshu.com/aic.html>)



(※)鷗州コーポレーション

鷗州コーポレーションは、国内外で学校運営校支援事業をはじめ各種教育事業を展開

(出典: <http://aic-oshu.com/company.html>)

Auckland International College



進学実績について

2015年度卒業生 88名【10期生】の大学合格実績

出願した 85名全員が、世界ランキング 25位以内の大学に合格

(2015年11月1日)

世界ランク 1位		カリフォルニア工科大学	1名合格	NZ 国内から AIC 生のみ 1名合格
世界ランク 2位		オックスフォード大学	4名合格	NZ 国内から 5名合格 うち 4名が AIC 生
世界ランク 6位		ハーバード大学	1名合格	*医学部合格
世界ランク 8位		インペリアル大学	26名合格	NZ 全国 1位
世界ランク 10位		シカゴ大学	1名合格	NZ 国内から AIC 生のみ 1名合格
世界ランク 11位		ジョンズホプキンス大学	2名合格	NZ 国内から AIC 生のみ 2名合格
世界ランク 13位		カリフォルニア大学パークレー校	6名合格	NZ 国内から 9名合格 うち 6名が AIC 生
世界ランク 14位		UCL(ロンドン大学)	51名合格	NZ 全国 1位
世界ランク 15位		コロンビア大学 (IVYリーグ)	1名合格	NZ 国内から 2名合格 うち 1名が AIC 生
世界ランク 16位		カリフォルニア大学ロサンゼルス校	13名合格	NZ 全国 1位
世界ランク 17位		ペンシルベニア大学 (IVYリーグ)	3名合格	NZ 国内から 3名合格(うち 1名 Wharton)
世界ランク 18位		コーネル大学 (IVYリーグ)	1名合格	NZ 国内から 2名合格 うち 1名が AIC 生
世界ランク 20位		デューク大学	2名合格	NZ 国内から 4名合格 うち 2名が AIC 生
世界ランク 21位		ミシガン大学	7名合格	NZ 国内から 11名合格 うち 7名が AIC 生
世界ランク 24位		エジンバラ大学	85名合格	NZ 全国 1位
世界ランク 27位		キングス カレッジ ロンドン(ロンドン大学)	32名合格	NZ 全国 1位
世界ランク 43位		東京大学	24名合格	NZ 全国 1位
		エール大学(シンガポール校)	2名合格	NZ 国内から AIC 生のみ 2名合格

←Auckland International College (AIC高校)

4. 国際バカロレア資格とは？

国際バカロレアとは

(出典:文科省 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/1307998.htm)

1. 国際バカロレア(IB)について

国際バカロレア機構(本部ジュネーブ)が提供する国際的な教育プログラム。

国際バカロレア(IB:International Baccalaureate)は、1968年、チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムとして、世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格(国際バカロレア資格)を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置。現在、認定校に対する共通カリキュラムの作成や、世界共通の国際バカロレア試験、国際バカロレア資格の授与等を実施。

2. IBのプログラムについて

国際的な視野を持った人材を育成するため、生徒の年齢に応じて、以下の教育プログラムを提供。平成28年4月4日現在、世界140以上の国・地域、4,495校において実施。

プライマリー・イヤーズ・プログラム(PYP)【1,369校(国内:20校)】

3歳～12歳を対象として、精神と身体の両方を発達させることを重視したプログラム。どのような言語でも提供可能。1997年設置。

ミドル・イヤーズ・プログラム(MYP)【1,272校(国内:9校)】

11歳～16歳を対象として、青少年に、これまでの学習と社会のつながりを学ばせるプログラム。どのような言語でも提供可能。1994年設置。

ディプロマ・プログラム(DP)【3,018校(国内:26校)】

16歳～19歳を対象としたプログラムであり、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格(国際バカロレア資格)が取得可能。原則として、英語、フランス語又はスペイン語で実施。1969年設置。

キャリア関連プログラム(CP)【111校(国内:-校)】

16～19歳を対象として生涯のキャリア形成に役立つスキルの習得を重視した、キャリア教育・職業教育に関連したプログラム。一部科目は英語、フランス語又はスペイン語で実施。2012年設置。



AIC インターナショナルスクール 日本国内展開プロジェクト



2016年7月

Auckland International College
Academy for the International Community NZ Limited

6. 日本国内展開プロジェクト

◆ 日本での設立趣旨

- ▶ 「世界の大学への道を開き、国際社会で活躍・貢献できる人材」の輩出
- ▶ 爆発的な拡大が見込まれるアジアでのインターナショナルスクール市場に応える

◆ カリキュラム

世界中の大学から高い評価を得る国際バカロレア (IB) プログラムを採用

◆ 特徴

ニュージーランドで培ったノウハウを駆使し、AICの教育・合格実績を日本で再現

7. 日本における学校設立プラン

ビジョン	<ul style="list-style-type: none">・各々の得意分野でリーダーシップを発揮できるグローバル人材の育成・世界のトップ大学への進学機会の提供
場所	東京 都心部
学年	高校1～3年生
対象	日本人および外国人の男女
定員	約300人
カリキュラム	1年生：Pre-IBカリキュラム(※1) 2年生：国際バカロレア (IB)・ディプロマ・プログラム(※2) 3年生：国際バカロレア (IB)・ディプロマ・プログラム
指導言語	英語
教師・スタッフ	約30人(フルタイム換算)

※1 Pre-IBカリキュラムは、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムへ向けた基礎を育むAIC独自のカリキュラムです。

※2 国際バカロレア・ディプロマ・プログラムは2年間のカリキュラムとなっています。

8. 新規事業(AICー日本分校開校事業)の特徴について

・NTTグループの支援による校舎の確保

⇒固定資産を持たないローコスト経営を目指し、1校当たりの損益分岐点を極小化。

・AIC NZ(ニュージーランド本校)の全面バックアップ

⇒13年の運営実績とグローバルレベルでもトップランクの合格実績を誇る本校から教員陣と運営ノウハウを移植

・急速にグローバルスタンダード化する国際バカロレア資格の取得は勿論のこと超進学校として、世界トップランクの大学への進学を目指すスクールへ

⇒ガラパゴス化する我が国の教育事情では身につかないグローバル教育(リーダーシップ・知力・語学力・発想力)の高みを目指せる数少ない教育施設

・グローバル展開する大企業従業員の優秀な帰国子女の受け皿となることを目指し、当該大企業の教育財団から奨学金を賛助頂くことで、健全経営のバックボーンを構築。

・「PRE IB 時の独自カリキュラム」(2年時以降の本プログラムのカリキュラムは、13ページ参照)

一年生入学時は1. 英検2級以上の英語力 2. 論理的な日本語表現力 3. プログラミング言語の3言語に関する受検で選抜する。

4月から7月で基礎教育を集中的に行い、8月の高卒認定試験にて日本における高卒資格を高校1年時の夏に早期取得する。

⇒以降1年間では

- ①徹底的な英語教育で2～3年時のIB授業に備える。ニュージーランド校との現地交流およびICTによる遠隔授業で多様性を理解する。非英語圏でのインターナショナルスクール運営モデルを確立する。
- ②日本の伝統、民俗に即した生活体験を行い日本文化と歴史を理解する。地方における現代的課題を認識し、課題解決案を構想する。
- ③来るべきシンギュラリティ時代を生き抜くために国内外の最先端技術者、起業家によるレクチャーを受けアントレプレナーシップを育成する。画一的な教育にそぐわない個性派生徒の潜在能力を引き出す。

英国のコグニタ社が展開するインターナショナルスクール・ビジネスが代表的

<http://www.cognitaschools.com/>

当社のHPを見ると、2004年創業で、12年間で既に69校を世界各国で展開するビジネススケールである。したるビジネスモデルは下記の記事を参照頂き、まだ我が国では馴染みが薄いこの種の教育産業のグローバルモデルについて、ご理解を頂ければと思う。現在の当社の資金スポンサーは米国のPEファウンドの今や老舗とも言えるKKRとの未確認情報もある。

(コグニタ社の代表者へのインタビュー記事から)

2012年08月21日

英国全土の私立小中高校と東南アジアのインターナショナルスクールを約50校も傘下に収め経営する、コグニータというユニークな投資会社がある。家族経営などの弱小な経営基盤で苦しんだ私立校を買収し、人気校へと刷新して生徒を集め、利益を出すというビジネスモデルだ。

投資先を選択し、保護者や生徒や地域環境に合わせて正しく刷新するためには、「ひと」が財産である。コグニータは単なる投資会社ではなく、現在3,500名にもものぼる教育のプロを積極的に採用し、内部でも育成し、経営と教育の両面で「エクセレンス(洗練)」を身につけた人材を、校長・教師又はスタッフとして買収した学校へと送り込む。

傘下の学校は、コグニータから資本、人材、授業カリキュラムなど多面的な改革を受け、規律や校風、学業面で大きな前進を見せ、名門校の仲間入りや振り返きを果たした学校も数多い。

英国の教育界で広く認知されるコグニータ社、その代表であり、同社設立以前は英国政府の教育監査委員長、Her Majesty's Chief Inspector of Educationとして、英国の教育に40年以上に渡り関わってきたサー・クリス・ウッドヘッド氏。(以下略)

(出展:<http://mamapicks.jp/archives/52080557.html>)

(シンガポールのインターナショナルスクール紹介のあるブログから)

1) スタンフォード・アメリカンインターナショナルスクール
法人登記は2008年ですが、学校の運営を始めたのは、2010年。
バカロレア認定校になったのは、2012年です。
BI以外にアメリカのカリキュラムで勉強することもできます。

学校名はバリバリアメリカですが、実は運営母体はイギリスの教育機関のコグニタ。2015年現在で、世界中で66校のインターナショナルスクールを運営しています。

それまで、IBが主流だったシンガポールのインターにアメリカのカリキュラムを持ち込み、しかも名前もスタンフォードとかつけてしまって、すごいですね。いかにも商売がお上手！って感じが漂います(笑！)

日本でも、ハーバード・アメリカン・スクールみたいな名前で登記できるのでしょうか？因みに、オーストラリアスクールの運営も、このコグニータが行っています。運営が変わってから、学校の評判も上向きです。

(出展:<http://ameblo.jp/2004-singapore/entry-12163370110.html>)

10. AIC四国瀬戸内校 開校計画書について ①ーコンセプト

AIC四国瀬戸内校 開校計画書

1. 学校概要

学校名	AIC(オークランドインターナショナルカレッジ)四国瀬戸内校
運営主体	株式会社 United School Service
学校形態	国際バカロレア機構認定校(高校生対象のフリースクール)
開校年月	2018年4月(四国校)
開校場所	四国瀬戸内校:香川県丸亀 NTT施設

2. 教育理念

①「地方の普通の高校生が当たり前のように世界の大学へ進学」

在留外国人、帰国子女、超富裕層など従来のインターナショナルスクールのターゲットにとどまらず、地域の自治体、産業界と連携し、地方の才能を発掘することで地方創生に貢献する。特に今般の四国瀬戸内校は、四国瀬戸内のインバウンド観光ビジネスを将来的に支えられる人材の発掘・養成の意義も兼ねる。広く生徒を県内外から集めるため、寮生活になることを想定し、丸亀市内の既存の賃貸物件を寮宿舎にして斡旋する予定。

②「和魂洋才」から「和魂グローバル才」へ

今後益々必要とされる能力は、外国語による発信力との観点から、日本の伝統を理解し、日本人としてのアイデンティティーを持った上で、世界に日本の文化を発信できる真の国際人を養成する。新渡戸稲造の「武士道」、岡倉天心の「茶の本」、内村鑑三の「代表的日本人」などに倣い、英語で日本人のアイデンティティーを伝えることができる深いレベルの英語思考力を養成するもの。

3. 企業方針

世界的にスタンダードになりつつあるIB(国際バカロレア)教育をいち早く日本の市場に取り入れ、文科省が推進するIB認定校200校計画のうち10校程度のシェアを獲得することを目指し、まず、四国瀬戸内に第1校を開校する。

4. 主要経営スタッフ

CEO	内田統夫	学進グループ代表
CVO	奥田博美	ウィズグループ代表
CFO	藤中達也	アドバイザリーブレイン代表
教務顧問	桑原克己	AICNZ代表
校長	David Cooper	AICJ中学・高等学校校長

(教員)国内外の国際バカロレア資格を持った教員経験者を採用予定

5. マーケティング・市場

①国内優秀生: 学費援助のための奨学金基金を創設予定

②帰国子女: 小中生向けのインターナショナルスクールに比べて進学実績が伴う高校生向けの当該スクールは供給不足

①・②⇒グローバル展開する大企業からの奨学金を獲得し、優秀な日本人生徒を獲得する。奨学金を出す企業ごとに、社員の帰国子女を中心に、優秀な生徒を選抜して当校へ推薦して頂くという方式も検討

③在留外国人子女: 日本で仕事をする外国人にとっての最大の不安は子供の教育

④国内富裕層子女: 今後大学の国際併願及び国内難関校のIB受験が一般的に

⑤将来的には、特区申請をお願いし、外国人留学生へのビザ発行も可能にして頂き、外国人留学生を受け入れて、校内のグローバル化を促進したい

6. 競争力

インターナショナルスクールが普及するにあたり他校との差別化の決め手は合格実績海外有名大学との強いパイプを持つAIC-NZのノウハウを活用

10. AIC四国瀬戸内校 開校計画書について ②一校舎予定不動産

NTTの遊休不動産の活用: 丸亀の好立地物件: NTTのICT技術の活用でNZの本校と遠隔同時授業を実現

(参考) 丸亀市内中心部 1000㎡以上のビルイン可能物件



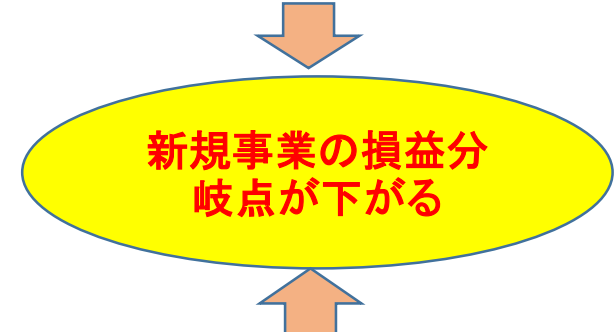
<外観写真>



<内観写真>



丸亀城近くの好立地物件をNTTグループから特別に賃借する予定 (非常に優遇された賃料と条件が期待される)

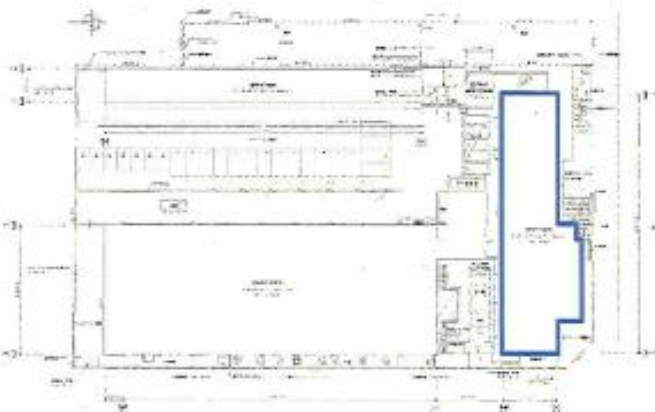


新規事業の損益分岐点が下がる

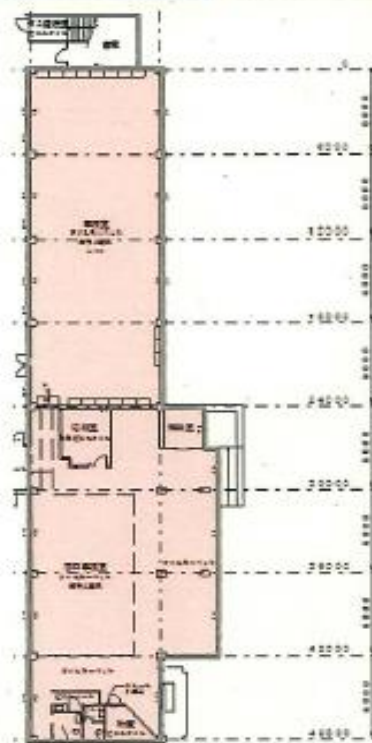
地上1階から4階建の不動産のうち、3フロアをAIC四国瀬戸内校の校舎として使い、残る1フロアは学進Gの丸亀校をこちらに移して使用

軌道に乗っている既存の塾の教室を移すことで、不動産の賃料の一部が塾の収入でカバーすることが可能に

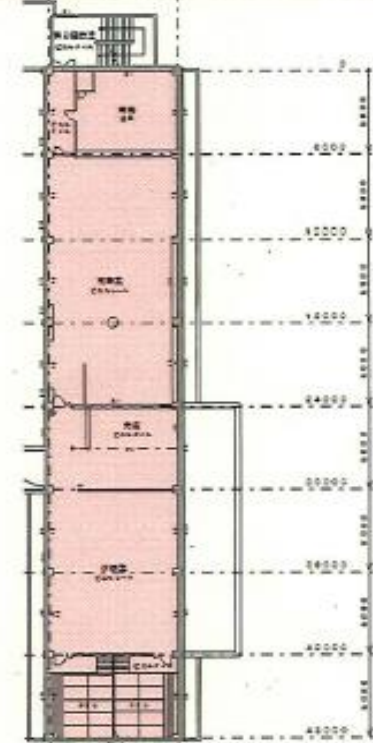
NTTのICT技術の活用
ニュージーランド校との現地交流およびICTによる遠隔授業で多様性を理解する。
(非英語圏でのインターナショナルスクール運営モデルを確立していく)



【配置図】



【平面図】 凡例: 貸付範囲 1F (約480㎡)



2F~4F (各階 約430㎡)

11. 新規事業の事業計画 (1)開校計画 カリキュラム

(1) 3年間のカリキュラムの流れ 新設校では以下の通り3年間のカリキュラムを提供する計画です。

学年	カリキュラム
高校1年次	Pre-IB コース
高校2年次	IB ディプロマ・プログラム (IBDP)
高校3年次	

(参考) 学費の目安
 ・入学金 : 30万円 (初年度のみ)
 ・年間授業料: 250万円/年
 ・教材費 : 50万円 (初年度のみ)
 ・寮費 : 丸亀市内で斡旋予定

(2) Pre-IB コース 独自に編成した、高校1年次の課程に相当するカリキュラムです。英語が母国語でない生徒もIB ディプロマ・プログラムでの学びを充実させることができるよう、このようなIB 準備コースを設けています。

修得を目指すスキル
コミュニケーション技能
リサーチ技能
ライティング技能
プレゼンテーション技能
タイムマネジメント技能

履修科目	指導言語
数学	英語
母国語	母国語
第2言語 (英語)	英語
自然科学 (生物・物理・化学)	英語
社会科学 (経済・地理・歴史)	英語
美術	英語

特に、AIC四国瀬戸内校では、Pre-IB コース の特色として、**4月から7月で基礎教育を集中的に行い、8月の高卒認定試験にて日本における高卒資格を高校1年時の夏に早期取得する。**

⇒以降1年間では

- ① 徹底的な英語教育で2～3年時のIB授業に備える。ニュージーランド校との現地交流およびICTによる遠隔授業で多様性を理解する。
- ② 日本の伝統、民俗に即した生活体験を行い日本文化と歴史を理解する。地方における現代的課題を認識し、課題解決案を構想する。
- ③ 来るべきシンギュラリティ時代を生き抜くために国内外の最先端技術者、起業家によるレクチャーを受けアントレプレナーシップを育成する。画一的な教育にそぐわない個性派生徒の潜在能力を引き出す。

(3) IB ディプロマ・プログラム (IBDP) 高校2年次および3年次に履修する2年間のカリキュラムで、母国語以外の科目の指導は英語で行われます。下記5項目の全てにおいて一定の基準を満たすことで、修了者にはIB ディプロマ (IB 修了証書) が授与され、日本を含む世界中の大学への出願資格を得ることができます。

- ① 6科目の履修 6教科群それぞれから1科目選択し、3科目を標準レベル、3科目を上級レベルで履修します。

グループ	選択可能な科目例
言語と文学	言語 A 文学 (英語、フランス語、中国語、韓国語、日本語、ベトナム語) 言語 A 言語と文学 (英語、フランス語、中国語、韓国語、日本語、ベトナム語)
言語習得	言語 B (英語、フランス語、中国語、韓国語、日本語、ベトナム語) 初級語学 (中国語、スペイン語)
個人と社会	経済、地理、歴史
実験科学	生物、化学、物理
数学	数学
芸術又は選択科目	美術あるいは、グループ1～5の教科からもう1科目選択する

② 課題論文 (Extended Essay : EE) 教員の指導のもと、約10か月の期間をかけてトピックの設定からリサーチ、ライティングまでを独立して行う論文形式の課題です。最終的には英語で4,000語 (日本語で8,000文字) 程度の論文を作成します。海外の大学で求められるリサーチ技能やライティング技能を学ぶことを目的としています。

③ 知の理論 (Theory of Knowledge : TOK) 物事を分析的に考え、認識や理解に影響を与える思い込みや偏見を正しく認識することができるよう手助けをする学際的なコースです。論理的な議論に基づき考えを表現し、他の文化的観点を受け入れることを学びます。コースの最終課題としてエッセイとプレゼンテーションが課せられます。

④ 創造・活動・奉仕 (Creativity, Action, Service : CAS) CASを通して、創造的な活動、体の鍛錬、コミュニティへの奉仕等に従事します。目安として150時間以上のCASを実施し、以下の8つの学習成果を達成することが求められます。

学習成果	詳細
自己認識	自らの強みや成長した分野に対する認識を高めたか。
グローバル	国際的な観点から重要な課題に取り組んだか。
献身	自分の活動において忍耐力や献身を示したか。
倫理	自らの活動の倫理的意義を考慮したか。
新しい挑戦	新しい挑戦に取り組んだか。
協調	他者と協力的に作業できたか。
計画	計画し、そして、活動を立ち上げたか。
新しい技能	新しい技能を発達させたか。

⑤ IB ディプロマ最終試験 (IB Final Exams) 2年間の集大成としてIB ディプロマ最終試験を受験します。各科目のコース課題と最終試験の結果が総合的に評価され、最終的なIB ディプロマスコアが決定します。IB ディプロマスコアが所定の基準に達していれば、プログラムの修了証書として『IB ディプロマ』が授与されます。

11. 新規事業の事業計画 (2)開校計画 開校タイムスケジュール

開校必要資金2億円の暢達の目途がついた時点でアクション開始



11. 新規事業の事業計画 (3)開校計画 数値計画 ①長期予想 P/L & BS

AIC四国瀬戸内校

(単位:千円)

予想損益計算書 科目	2017/3/31	2018/3/31	2019/3/31	2020/3/31	2021/3/31	2022/3/31	2023/3/31	2024/3/31
売上高	0	29,925	139,800	250,300	329,300	329,300	329,300	329,300
売上総利益	0	29,925	139,800	250,300	329,300	329,300	329,300	329,300
売上総利益率	----	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
販売費及び一般管理費(※1)	19,000	82,982	159,610	204,460	246,400	246,400	246,400	246,400
営業利益	-19,000	-53,057	-19,810	45,840	82,900	82,900	82,900	82,900
経常利益	-19,450	-58,607	-25,510	40,140	82,900	82,900	82,900	82,900
法人税	0	3,000	72	72	72	1,000	15,000	15,000
税引前後当期純利益	-19,450	-61,607	-25,582	40,068	82,828	81,900	67,900	67,900

予想貸借対照表 科目	2017/3/31	2018/3/31	2019/3/31	2020/3/31	2021/3/31	2022/3/31	2023/3/31	2024/3/31
流動資産	18,550	87,543	58,961	96,029	178,857	260,757	328,657	396,557
内 現金及び預金	18,550	87,543	58,961	96,029	178,857	260,757	328,657	396,557
固定資産	2,000	31,400	34,400	37,400	37,400	37,400	37,400	37,400
有形固定資産	2,000	19,400	22,400	25,400	25,400	25,400	25,400	25,400
その他の投資等		12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
【資産計】	20,550	118,943	93,361	133,429	216,257	298,157	366,057	433,957
流動負債	0	0	0	0	0	0	0	0
固定負債	30,000	190,000	190,000	190,000	190,000	190,000	190,000	190,000
【負債計】	30,000	190,000	190,000	190,000	190,000	190,000	190,000	190,000
資本金	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
利益剰余金	▲ 19,450	▲ 81,057	▲ 106,639	▲ 66,571	16,257	98,157	166,057	233,957
【資本計】	▲ 9,450	▲ 71,057	▲ 96,639	▲ 56,571	26,257	108,157	176,057	243,957
【純資産計】	▲ 9,450	▲ 71,057	▲ 96,639	▲ 56,571	26,257	108,157	176,057	243,957
【負債及び純資産計】	20,550	118,943	93,361	133,429	216,257	298,157	366,057	433,957

(資金調達は、(株)United School Service が他社株転換(コンバーチブルノート・CB等)を発行して、当該資金の調達を目指すため、負債に表記)

11. 新規事業の事業計画 (3)開校計画 数値計画 ②計算前提について

事業計画(数値計画策定前提条件)

(注)新規事業の事業計画 開校計画 数値計画 長期資金繰表は別紙にて

※水道光熱費は固定資産税を含む

※校長、IBCは開校半年前、その他教師は一ヶ月前、管理職員・寮管理職員は一年前から雇用すると仮定。

※入学生徒数は、秋入学と春入学で50:50として計算し、保守的に定員に対して若干減らした人数としている

※授業料、教材費は、年2回の支払いと仮定

※法人税等は考慮していない

1. 生徒数等条件

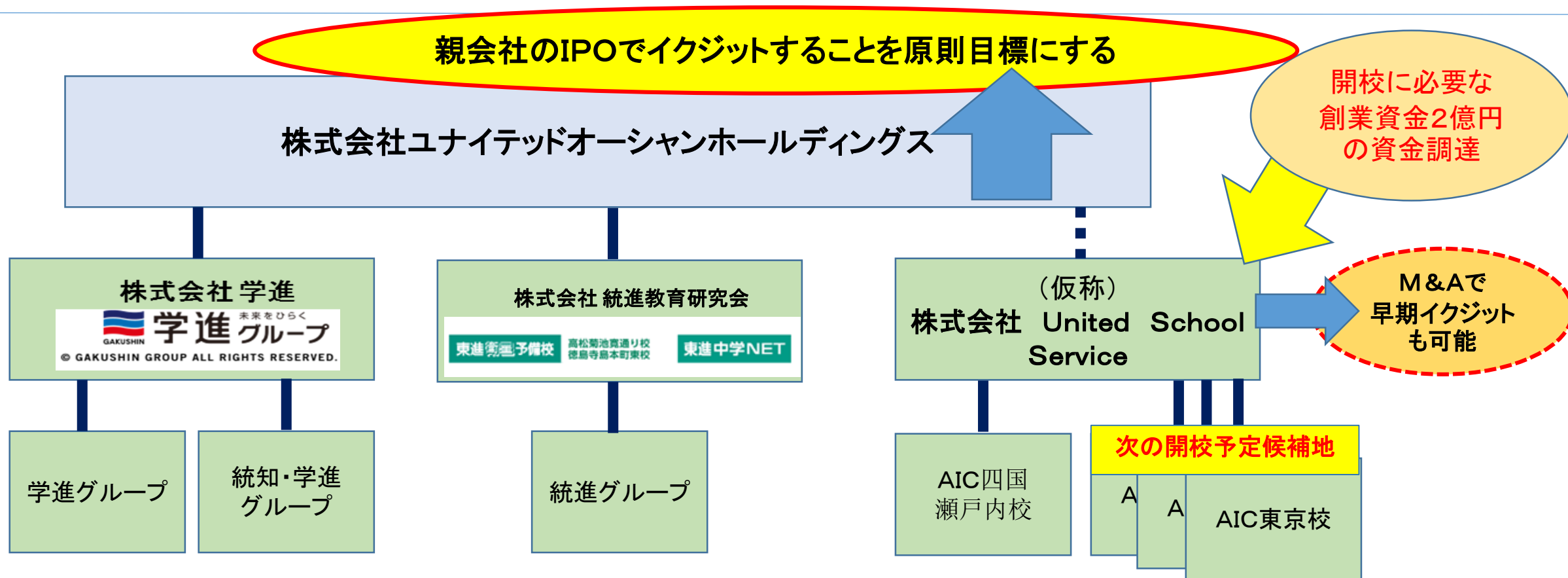
(千円)

		2018春	2018夏	2019春	2019夏	2020春	2020夏	2021春	2021夏	2020春
		80%想定	90%想定	85%想定	95%想定	90%想定	95%想定	95%想定	95%想定	95%想定
生徒数	高三					19	21	20	22	22
	高二			19	21	20	22	22	22	22
	高一	19	21	20	22	22	22	22	22	22
	入学金計	19	21	39	43	61	65	64	66	66
料金	学費	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500
	入学金	300	300	300	300	300	300	300	300	300
	教材費	50	50	50	50	50	50	50	50	50
学費計	高三	0	0	0	0	47,500	52,500	50,000	55,000	55,000
	高二	0	0	47,500	52,500	50,000	55,000	55,000	55,000	55,000
	高一	47,500	52,500	50,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
入学金計	5,700	6,300	6,000	6,600	6,600	6,600	6,600	6,600	6,600	6,600
教材費計	高三	0	0	0	0	950	1,050	1,000	1,100	1,100
	高二	0	0	950	1,050	1,000	1,100	1,100	1,100	1,100
	高一	950	1,050	1,000	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
料金合計	学費	47,500	52,500	97,500	107,500	152,500	162,500	160,000	165,000	165,000
	入学金	5,700	6,300	6,000	6,600	6,600	6,600	6,600	6,600	6,600
	教材費	950	1,050	1,950	2,150	3,050	3,250	3,200	3,300	3,300

(千円)

		2018春	2018夏	2019春	2019夏	2020春	2020夏	2020春
職員数	校長	1	1	1	1	1	1	1
	IBC	1	1	1	1	1	1	1
	教師	2	10	10	13	13	16	16
	管理	4	4	4	4	4	4	4
	寮	2	2	2	2	2	2	2
給与	校長	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	IBC	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
	教師	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
	管理	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	寮	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
月額給与	校長	833	833	833	833	833	833	833
	IBC	667	667	667	667	667	667	667
	教師	500	500	500	500	500	500	500
	管理	417	417	417	417	417	417	417
	寮	417	417	417	417	417	417	417
月額給与合計	校長	833	833	833	833	833	833	833
	IBC	667	667	667	667	667	667	667
	教師	1,000	5,000	5,000	6,500	6,500	8,000	8,000
	管理	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667	1,667
	寮	833	833	833	833	833	833	833

12. 資金調達と今後のイクジット戦略について



(1) AIC四国瀬戸内校の開校資金は、約2億円の見積

資金調達は、(株)United School Serviceが**自社株又は他社株転換(コンバーチブルノート/CB又は種類株式等)を発行して**、当該資金の調達を目指す。他社株転換先は、(株)ユニテッドオーシャンホールディングスである。当該他社株転換のコンバーチブルノートの転換権評価については(株)プルータス・コンサルティングに算定依頼を出す予定。

(2) イクジット戦略は、下記の通り

(株)ユニテッドオーシャンホールディングスは、上場のステップとして、今後2年の間に東証プロマーケットへの上場も視野に入れております

- ① M&A: 自社株転換で、(株)United School Serviceを国内同業大手等にM&Aで売却するということで、早期のイクジットも可能
- ② IPO: 原則は、①をしないで、親会社株への転換が前提で、(株)ユニテッドオーシャンホールディングスでIPOを目指す